



エターナル・ラブ・イスラエル



☆ ニュースレター32号 ☆



永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。

おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。(エレミヤ 31:3~4)

●事務局: 〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 Tel:090-8729-0856

●メール:eternalloveisrael@gmail.com

●ホームページ:http://eli.holy.jp

●銀行口座:三菱東京 UFJ 銀行 武蔵新城駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル

●郵便振り込み:00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表 宮本 純子(聖契神学校卒業、WMTC 世界宣教研修センター卒業)

☆過越の祭り☆

ハレルヤ! 主の聖名を心から賛美いたします。

愛する皆さまお元気でお過ごしでしょうか。

いつもエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにお祈りと尊いご献金で支えてくださり心から感謝を申し上げます。

4月22日、アメリカンクラブにてハバッド・ジャパン主催の過越の祭りの食事会セデルが開催されました。在日ユダヤ人やイスラエル人観光客など約200名が参加し、過越の祭りを祝い、出エジプトを覚えました。

今年の過越の祭りは、例年とは少し違い、イスラエルではガザ地区でのハマスとの戦争が続いているので、ハマスに人質となり拘束されている方々の写真を掲げました。また、人質の写真と名前、年齢と詩篇130篇が記された祈りのカードが配布されました。

「私のたましいは 夜回りが夜明けを

まことに 夜回りが夜明けを待つのにまさって 主を待ちます。

イスラエルよ 主を待て。

主には恵みがあり 豊かな贖いがある。

主は すべての不義から イスラエルを贖い出される。」詩篇 130:6~8

過越の祭りの食事セデルの中で、出エジプトの十の災いを覚えました。

過越の夜、エジプトのあちこちの家で初子が死にました。神の約束通り、信仰によって家の入り口に傷のない小羊の血をつけた家を神様は過ぎ越され、その家には死がありませんでした。翌朝、イスラエルの民は全員、罪と死の象徴であるエジプトから脱出できたのです。

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」 私達の罪を贖うお方は、罪のない神の小羊なるイエス様です。

出エジプトのユダヤ人たちが信仰により、傷のない小羊の血を門柱とかもいにつけたのと同じように、神の小羊であるイエス・キリストの十字架上で流された尊い血潮を、イスラエルとすべての人の心と魂の入り口につけることができますようにお祈り致します。イエス様の十字架の贖いを心から感謝致します。



☆イスラエル独立 76 周年記念のタベ☆



5月20日、日本イスラエル親善協会主催「イスラエル独立記念のタベ」が、千代田区のいきいきプラザにて開催されました。

イスラエル・ストゥルロヴ駐日イスラエル大使館次席公使が挨拶として語られた言葉に感動しましたので、抜粋して引用させていただきます。

「イスラエルでは戦没者追悼記念日に日が沈むと、国全体が嘆きから喜びへと変わり、イスラエルの独立を祝います。追悼から祝賀への峻烈なコントラストは私

(イスラエル・ストゥルロヴ公使と奥様)たちが生きるために究極の代償を払った人々の死と生に対する国民の感謝の表



れです。それはまた『アム・イスラエル・ハイ(イスラエルの民は生きている)』という国家の回復力の表明でもあります。10月7日の虐殺によって引き起こされた戦争の影で、今年はホロコーストとイスラエル建国以来かつてない大きなコントラストをなしています。(中略)あの『黒い安息日』以来、私たちが危機に瀕している中、皆さまは集会や追悼式で私たちに寄り添い、主権国家を守るために戦っている私たちや、私たちの家族・友人、そしてハマスや他のテロ組織の非道な悪行による、暴力的な死とトラウマに悲しみ苦しんでいる人々のために声を上げてくださいました。私たちの現代史において、最も困難な時期にイスラエルと共に立

ってください本当にありがとうございます。『困難にあるときの友は真実の友』ということわざが思い起こされます。このような時こそ友情が試され、真の友人が明らかになります。個人であれ国家であれ、友のために正しいことを貫くことは逆境を伴うこともあり勇気を必要としますが、そこから壊れることのない絆が生まれます。」(月刊イスラエル 2024年7・8月号参照)

親善協会総会会場のロビーには、ハマ스에拉致された被害者の写真が展示されました。

☆オメル・スマジャさんを悼む☆



(オメル・スマジャさん)

エターナル・ラブ・イスラエルは、イスラエル柔道チームを応援・支援しています。

6月20日、オレン・スマジャ監督のお誕生日でした。私は何故かお祝いのメッセージを送るのをためらいました。そして翌日、悲しい訃報に驚きました。

ガザを南北に分断している回廊で、テロリストによる迫撃砲による攻撃があり、オレン・スマジャ監督の息子オメル・スマジャさん(25)ともう1人の計2人が死亡、5人が負傷という悲しいニュースが入ってきました。

軍曹であるオメルさんは、任務前に父親であるオレン監督に誕生日を祝うメッセージを送り、これが最後のやり取りとなったのです。オメルさんは、2019年に骨髄を寄付し、人の命を救った親切で勇敢な青年でした。

オレン・スマジャ監督は、1992年バルセロナオリンピックでイスラエル選手として初の銅メダルを獲得。1995年の世界選手権では、決勝で古賀稔彦さんに一本背負投で敗れ銀メダルを獲得。私は、古賀稔彦さんご逝去にオレン監督が書かれた哀悼の意に涙したのを覚えています。

オメルさんの葬儀にはパリ五輪に出場する柔道選手をはじめスポーツ関係者(左は、オレン・スマジャ監督)たちも参列。葬儀でオレンさんは兵士たちに「勝利するまで、(戦いを)やめるな」と呼びかけ励ましました。ネタニヤフ首相も弔問に訪れました。

オメル・スマジャさんの記憶が祝福されますように。ご遺族の皆様、心より哀悼の意を表します。

☆アルメニア(備忘録)☆

阿部 忠義



アララト山を見たくてアルメニアに行ってきた。 還暦も過ぎて元気なうちに、というより後悔しない為に、が正解かもしれない。

創世記6章3節「…こうして、人の一生は百二十年となった」

アルメニアは、世界で最初にキリスト教国(301年)となった国。

そのキッカケとなった啓蒙者グレゴリウスが投獄されていたホルヴィラップ修道院へ行った。グレゴリウスが13年間も投獄されていた地下牢に入ってみたが、そこは狭すぎて、暗く蒸し暑い所でした。良く生きていられたものだと思った。彼の信仰心の強靱さもさりながら、彼を陰で支えた無名の女性信者が毎日パンを投げ入れていたとの事でした。

名もないと言え、12使徒で「忘れられた聖人」と呼ばれていたタダイ、そしてバルトロマイがここアルメニアで殉教したことも鑑みて、ローマより早くアルメニアが世界最初のキリスト教国になった靈的要因ではないかと感じた。牢獄から外へ出ると、目の前には雄大に横たわるアララト山(5,137m)だ。

創世記8章21節に「…人の心が思い図ることは、幼いときから悪であるからだ」この時から主の配剤で、人間に「良心の呵責/良心」が賦与された。アララト山は、そんな良心を象徴する山だとも言えるじゃないかと思った。

翌日からは宿泊先のエチミアジンからタクシーでムサレル訪問、セヴァン湖巡りとエレヴァン観光する。正味4日間の旅なので少しハードワーク気味でしたが最終日はゆっくりとエチミアジン巡りをすることにした。大聖堂内の宝物館に収められているロンギヌスの槍(十字架上のイエス・キリストの死を確認するため、脇腹を刺したとされる槍)を拝観する為、5人の中国人の方達と一緒にグループでした。リーダー格の青年と若い女性達は中国の青島(チンタオ)から来たと言っていた。何故かすぐ地下教会の方達なのかなと思ったけど、熱心に色々な宝物の説明する青年と真剣に聞きいる女性達をみて(勿論、中国語はわからないけど)目を覚ましていなさい。の御言葉が浮かんだ。中国人たちと帰り際、大聖堂の門でバイバイと手を振って別れたのですが、「次の旅はエルサレムですか?」というニュアンスで聞いてみたら、みな微笑んでいたのが印象的でした。

アルメニア共和国の基礎知識 国土面積は日本の関東地方程度しかなく、およそ300万弱の人々が住み、北はジョージア、東はアゼルバイジャン、南はイランとアゼルバイジャンの飛び地ナヒチェヴァン、そして西はトルコと接しています。アルメニア人の特徴の1つとして「ユダヤ人に似た背景を持つ」という点が挙げられます。アルメニア人はユダヤ人のように、迫害されてきた歴史を持ちます。そしてこの結果、歴史の中でアルメニア人の多くは世界中に散らばり、世界各国で離散民(ディアスポラ)として暮らしています。その数はアルメニア国内の300万弱に対して、なんと700~1000万人と言われます。ユダヤ人と同じように、アルメニア人にはアルメニア人による国際的なネットワークが存在します。

エルサレムの旧市街は、キリスト教徒地区、ムスリム地区、ユダヤ人地区、アルメニア人地区の4つの区域に分かれています。エルサレムの旧市街にアルメニア人地区があることを覚えて頂ければ感謝です。

☆アートミニストリーより☆

☆9月11日~16日「第65回太平洋神奈川支部展」横浜市民ギャラリーにて開催。

☆10月8日~14日「第35回神奈川美術協会会員展」横浜市民ギャラリーにて開催。



☆祈りのリクエスト☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



- ☆主のご再臨のために。イスラエルの救いのために。日本のリバイバルのために。
- ☆世界情勢が激しく動く中、世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、政治を進める事が出来ますように。
- ☆イスラエル・ハマス戦争のために。ハマスに拉致された人質が無事に解放されますように。イスラエルのために戦っているイスラエル兵士たちが守られますように。

☆ガザ地区の市民の被害が最小限に抑えられますように。

☆レバノン南部のイスラム教シーア派組織ヒズボラとの軍事衝突のために。イランの動きも含めて緊迫する中東情勢のために。敵対する側からのあらゆる攻撃からイスラエルが主に守られますように。

☆世界中で起きている戦争、紛争、軍事侵攻、テロ、あらゆる対立などがなくなり、平和となりますように。

☆神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、イスラエルの平和が守られ、神様のご計画とみこころが成りますように。

☆反ユダヤ主義が世界中に広がりつつあります。ホロコースト(ユダヤ人大虐殺)の歴史を繰り返すことがないように。反ユダヤ主義がなくなりますように。

☆世界中からユダヤ人がイスラエルに帰還することが出来ますように。

☆日本イスラエルの両国間の関係があらゆる分野で発展し、更に良い外交関係を築くことが出来ますように。

☆イスラエルの民、ユダヤ人の救いのために。イエス様を信じて救われる魂が多く起こされますように。

☆クリスチャンがユダヤ人迫害をした歴史があります。ユダヤ人とクリスチャンが和解できますように。

☆メシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエル国内で大胆に伝道できますように。

☆エターナル・ラブ・イスラエルのユダヤ人伝道の働きが主に祝福されますように。

☆2024年 秋のユダヤの祭り☆



☆10月2日~4日 ロシュ・ハシャナー(新年、ラッパの祭り)

ユダヤ暦新年は西暦の9月(ティシュレ月)1日から始まります。

今年は、ユダヤ暦 5785 年を迎えます。新年を祝い、「丸くて甘い年となりますように。」と、ハチミツにリンゴを浸して食します。

☆10月11日~12日 ヨム・キプール(大贖罪日)

ユダヤ教徒は新年ロシュ・ハシャナーから10日間懺悔をし、10日目のヨム・キプールは断食をして一年間の罪を悔い改めます。イスラエルでは、最も重要な日で全ての施設が休みです。

☆10月16日~10月23日 スコット(仮庵の祭り)

イスラエルの民が出エジプト後8日間仮庵住まいだったことを記憶し、仮庵を建てて食事をします。秋の収穫を祝う意味もあります。イスラエルでは、初日のみ全ての施設が休みです。

☆10月24日 シムハット・トーラー(律法の歓喜祭)

ユダヤ人は、トーラー(モーセ五書)を1年間で読了します。新年を迎えまた創世記から読み始めるにあたり、トーラーを与えてくださった神様に感謝し、読了をお祝いします。

☆皆さまの上に神様の祝福と恵みが豊かにありますよう心からお祈り申し上げます。

2024年7月発行 (季刊誌)